

令和元年6月25日
国土交通省

【概要書】

平成30年度 首都圏整備の状況

の報告書が提出されました。

連絡先は省略。

第1章 首都圏をめぐる最近の動向 <令和元年版テーマ> 首都圏における官民ボーダレスな都市空間の創造

人口減少・少子高齢化、公的部門の財政制約等の下、身の回りの持続可能なまちづくりを進めるため、都市の活力を高める経済活動や地域住民に不可欠な生活サービスの担い手である「民」の力を活かすことが必要。「民」の力の活用を図る上で、「公共空間の民間経済活動の場への開放」、「民間空間での公共的機能の発揮」、「都市開発を通じたイノベーション空間の創出」、といった都市空間の「官民ボーダレス化」の取組により、多彩な空間活用・生産性向上を図ることが重要。首都圏における取組事例等について整理・分析を行い、更なる取組の横展開を促すことを目的に、報告を行う。

第2章 首都圏整備の状況 首都圏整備計画の策定及び実施に関する状況の年次報告

<首都圏> 1都7県 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県

【第1章】公共空間の民間経済活動の場への開放

- 人口減少・少子高齢化等の下、都市インフラの維持管理費が増大する中での今後の都市インフラの持続可能なあり方、市街地が拡散・低密度化する中でのまちなぎわい創出が課題。
- 公共空間を民間開放し、その収益を都市インフラの維持管理等に還元したり、にぎわいスペースとして活用する取組が増加してきている。

【南池袋公園/グリーン大通り】(東京都豊島区) 持続可能な公園経営×緑の回廊

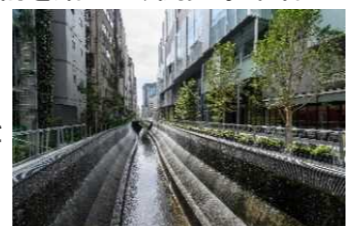
- 南池袋公園が全面芝生張りの明るい空間にリニューアルしたのに併せ、園内にオープンスタイルのカフェ・レストランを誘致し、出店者の収益の一部を、公園の維持管理、地域貢献活動等の実施経費に充当。
- 南池袋公園に隣接するグリーン大通りに関して、オープンカフェ・キッチンカーやマルシェ等の社会実験を行い、南池袋公園との相乗効果を目指す。



豊島区提供

【ミズベリング/渋谷川再生】(東京都渋谷区) 水辺とまちの未来創造 × 高度処理再生水による水辺空間の再生

- 「ミズベリング」は、まちにある川や水辺空間の新しい活用の可能性を追求し、水辺とまちの未来の創造を指向する、市民、企業、行政が一体となったプロジェクト。
- 渋谷駅南側エリアの再開発に隣接する渋谷川について、地元住民等の協議会による検討を踏まえ、開発事業者と渋谷区が連携し、高度処理再生水を活用した壁泉により水の流れを再生。併せて遊歩道や広場を整備し、にぎわいと潤いのある水辺空間を創出。



渋谷ストリーム提供

【第1章】民間空間での公共的機能の発揮

- 東京都を除いた7県では、空き地等の増加が顕著。今後、これらの県では更なる人口減少が見込まれ、空き地等の増加に拍車がかかるおそれ。
- こうした民間の空き地等を市民団体が利活用し、エリア価値や魅力の向上を図る取組がある一方、東京都においては、公開空地等の柔軟な活用による地域のにぎわい創出等のための仕組みを創設。

【カシニワ】(千葉県柏市) 空き地対策×グリーンインフラ

- 空き地、樹林地等を市民団体等が手を加え、シェアガーデン、コミュニティ農園、イベント広場等の「カシニワ=かしの庭・地域の庭」として活用し、グリーンインフラの創出・地域の魅力アップ等を図るプロジェクト。
- 土地所有者による空き地等の提供の希望、市民団体等による空き地等の使用の希望について、市がニーズをマッチング。



NPO法人牧場跡地の緑と環境を考える会提供

【まちづくり団体の登録制度】(東京都) 公開空地活用×地域のにぎわい向上

- 都市開発プロジェクトにより創出される公開空地等を柔軟に活用し、地域のにぎわいを向上させる活動を行う法人(まちづくり団体)を、東京都が登録。
- 公開空地等においては、一般には有料イベントの禁止等の制約がある一方、登録法人であれば、コンサート等の有料イベント、物品販売、オープンカフェ等のエリアのにぎわい創出等につながる幅広い活動が可能に。



ワテラス(千代田区神田淡路町)

【第1章】都市開発を通じたイノベーション空間の創出

- 人口減少下において経済成長を維持するためには、イノベーションの創出が重要であり、これを促進する空間の形成が必要。
- 近年、大都市部においては、大規模再開発に併せたイノベーション空間の創出が進められている一方、地方部においても、スタートアップ創出に向けた地方創生につながる動きが注目されている。

【SHIBUYA+FUN PROJECT】(東京都渋谷区) 駅まち一体整備×エリアマネジメント

- 渋谷駅を中心に現在同時並行的に進行している大規模再開発プロジェクトにおいては、良質なオフィス空間、帰宅困難者の一時滞在施設や備蓄倉庫等のほか、クリエイティブ・コンテンツ産業等の交流施設や支援施設など、イノベーションの創出につながる空間を創出し、国際競争力の強化を目指している。
- H27、都市再生法人「(一社)渋谷駅前エリアマネジメント」が発足し、渋谷の魅力の駅前から発信する「SHIBUYA+FUN PROJECT」を推進。



渋谷駅前エリアマネジメント提供

【M-WORK(エム・ワーク)】(茨城県水戸市) 地方創生×スタートアップ

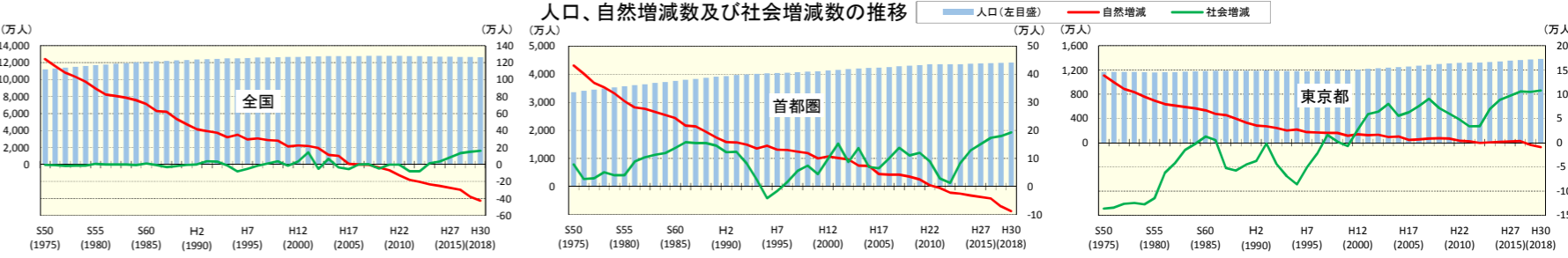
- 中心市街地の空洞化が進む水戸市の地方創生を目的に、市中心部の老朽化ビルを、クラウドファンディング等により集めた資金によりリノベーションした、コワーキングスペース&カフェ等のスタートアップ支援施設。
- 水戸から新しいビジネスを生み出し、地域活性化につなげることを目指し、起業を目指す個人、法人や学生に居場所や交流の場を提供。



コワーキングスペース M-WORK提供

【第2章】首都圏整備の状況

- 全国の人口はH20を境に減少している一方、首都圏の人口は一貫して上昇している。
- 首都圏人口の自然増は漸減傾向であり、H23以降は減少に転じている。社会増は1都3県を中心に近年増加しており、特に東京都における社会増が大きい。
- 市区町村別人口増減率を見ると、東京都心部及びその周辺の市区町村の増加率が高い。



- 首都圏の県内総生産合計はH21以降ほぼ漸増傾向であり、首都圏の全国シェアはH27で39.6%、うち東京都の全国シェアは19.5%を占めている。
- 1人当たり県内総生産の都道府県別順位は、圧倒的に東京が全国1位。一方、2010年から2015年の間における東京都の人口増加率は全国2位にもかかわらず、県内総生産の伸び率は15位1人当たり県民所得の伸び率は33位であり、人口増加の勢いほど経済成長できていない。

